

令和四年四月二十四日 北海道帯広^{ひかりのやかたせいこん}偉光会館清魂の儀

神 示

この地を守るため 神は神魂の力をこの地に宿す
今までとは違う

神がこの地を守る

信者は その真実を心に受け止め 三つの課題 心に留めて 家族で参拝
「教え」を学び 我が家に「真理」を生かすこと

この世は無常——有限の時を重ねて 「心の道」をつないでいる
神の教え「真理」を家族で学ぶ

そこに 人としてあるべき姿^心が見えてくる
和のある家庭を 手にする人の姿が ここにある

信者は 「偉光会館」を 愛^めでて 守ってほしい
その心の深まりに 一人一人の「運命」が磨かれてゆく

今の社会^{人々}の姿を見てごらん
真理を欠く人々が導く 社会の姿が そこにある

今 世界は 正道に戻るため 時代の力を受けて 修正されている
変化にのまれぬよう 「教え」に生きるべし

いま一度申す

——この地を守るため 神魂がこの地に宿る——
この真実を忘れるべからず

この地の「偉光会館」は この地を守るにふさわしい館と申す
心迷うとき 心のとらわれから解放されるため

家族で「偉光会館」に必ず参拝

心は晴れ上がり 夢を持って生きられる

この地の良き实体に 皆^{信者}の心^{人生}が 包まれ 守られるよう 神は導いてゆく
家族で「教え」を学ぶ 心を欠いてはいけない

神 示

きようより この地は 神の手の中

神魂の力に「心」守られ 導かれてゆく

ただ一つ 「教え」を学び

「真理」で世の流れを見詰めて生きること

世の知識には 真理が薄い

真理なき知識頼って 自ら悩む

知識で生きるために 迷い 苦しむ人が多い

信者は 「運命」の力を悟り

「真理」で我が人生を見詰めて生きるべし

開所迎える今日日 神は祝わん おめでとう